

# 進路環境D

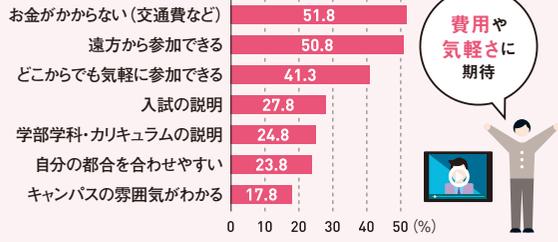
—「今」が見えてく

そのまま教室に掲示！

## 進学<sub>の</sub>動向

### WEBオープンキャンパス広がる

[高校生がWEBオープンキャンパス(OC)に期待していること]



進学者の9割以上が参加するOC。コロナ禍でWEBでも実施する学校が増加した。内容は学部学科の紹介、入試説明、模擬授業動画の配信、WEBキャンパスツアー、オンライン個別相談など多彩。移動の費用や時間がかからず遠方の学校にも参加しやすいという良さもあるので、積極的に利用したい。

リクルート カレッジマネジメント「コロナウイルス感染拡大による進路選択影響調査」(2020年)  
※複数回答/上位7項目を掲載

### 初の大学入学共通テスト、私大も9割近く利用

[令和3年度大学入学共通テストの利用大学数]



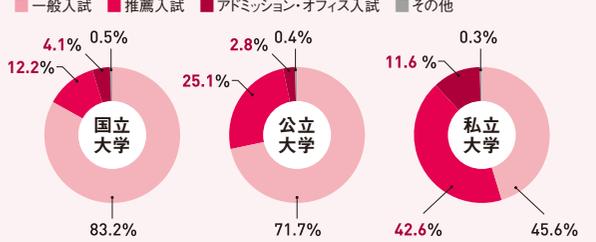
専門職大学5大学・短期大学155大学と合わせて計866大学が利用

初めての大学入学共通テストは国立・公立は全大学、私大も9割近くが利用し、約53.5万人が志願した。内容は前年までの大学入試センター試験に比べ、身近な話題に関連づけた問題や複数の資料から考察する問題などが増加。知識や解法の暗記にとどまらず、実践的に活用する力が求められる。

大学入試センター「令和3年度大学入学共通テスト利用大学・専門職大学・短期大学数について」

### 大学入試は多面的・総合的評価の方向へ

[入試方式別に見た大学入学者の割合]



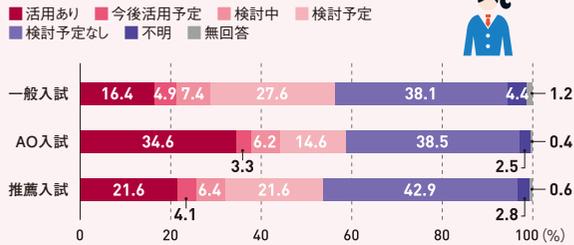
2021年度入試からの新たな入試区分\*では、そのすべてで学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)を問う多面的・総合的評価を実施。校内外の幅広い活動での学びが評価される。

\*2021年度入試より一般入試→一般選抜、推薦入試→学校推薦型選抜、AO入試→総合型選抜に名称変更

文部科学省「平成31年度国公立大学入学者選抜実施状況」より集計  
※「その他」は専門高校・総合学科卒業生入試、帰国子女入試、中国引揚者等子女入試、社会人入試の合計

### 将来を見据えた英語4技能の習得を

[大学入試における英語資格・検定試験活用状況]

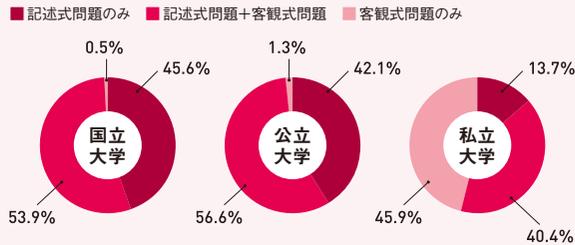


大学入試では、いずれの入試方式\*でも英語4技能(読む・聞く・書く・話す)を測る民間の検定試験の活用が進んでいる。「今後活用予定」「検討中」という学校もあり、今後も活用比率の上昇が予想される。大学入学後やその先のグローバル社会を見据えて4技能習得を目指したい。

文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査(令和2年度)」  
\*2021年度入試より一般入試→一般選抜、AO入試→総合型選抜、推薦入試→学校推薦型選抜に名称変更

### 記述式問題で問われる思考力・判断力・表現力

[一般入試における出題形式の状況]

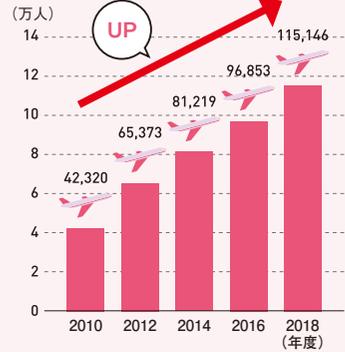


大学入学共通テストへの記述式問題導入は見送られたが、個別学力検査では既にほとんどの国立・公立、半数強の私立が記述式問題を出題している。解答には自らの力で考えをまとめたり、根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力が必要。日頃の授業から自分の考えを言語化する練習を。

文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査(令和2年度)」  
※記述式: 語句、文、図表などで解答/客観式: O×式、選択式、並べ替え式など

### グローバル化で拡大する国境を超えた学び

[大学生等の留学状況]



社会のグローバル化に伴い、大学生等の留学者数は8年間で3倍近く増加。2020年度はコロナ禍で渡航が困難な状況となったが、各大学はオンラインを利用した留学プログラムや国際交流を始めるなど、新たな動きも。国境を超えた交流や学びを諦めずに情報収集することが大切。

日本学生支援機構「2018(平成30)年度日本人学生留学状況調査結果」  
※数値は協定等に基づかない日本人留學生数(在籍大学把握分)を含む  
※2013年度の調査より高等専門学校および専修学校(専門課程)も調査対象

### 大卒者の14人に1人は進学も就職もしていない

[大学・短大卒業者の学部系統別進路状況]

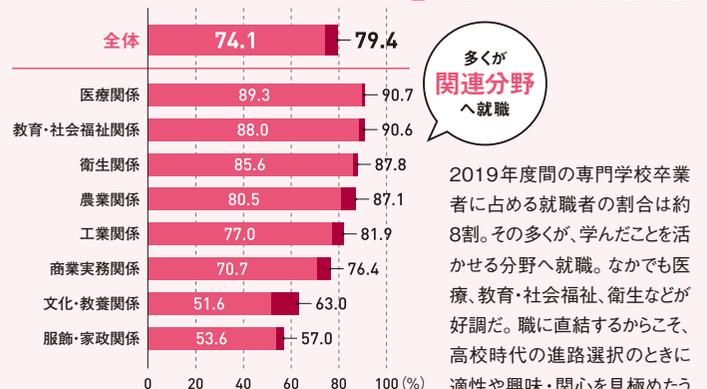


2020年度大学卒業生全体に占める就職者等の割合は79.2%。大学院等への進学者は平均10.4%だが、理系学部の比率は高め。就職が好調だったなか、進学でも就職でもない(無業)者が7.1%存在。大学で何を学ぶか、目的・目標をもって進学することが卒業後の進路につながる。

文部科学省「学校基本調査」(2020年3月卒業生について) ※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者(就職しつづけた者を含む)  
※グラフでは「臨床研修医(予定者を含む)」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

### 職に直結していく専門学校の学び

[専門学校卒業者の就職状況]



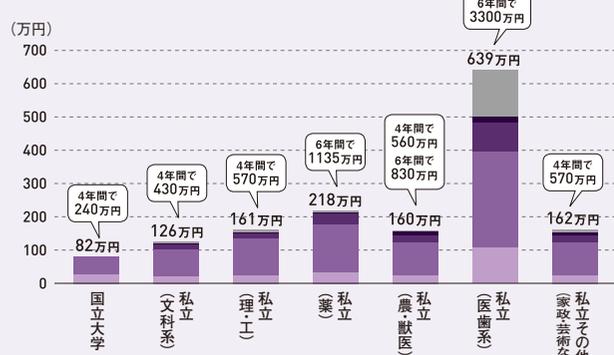
多くが関連分野へ就職

2019年度間の専門学校卒業生に占める就職者の割合は約8割。その多くが、学んだことを活かせる分野へ就職。なかでも医療、教育・社会福祉、衛生などが好調。職に直結するからこそ、高校時代の進路選択のときに適性や興味・関心を見極めたいうえで進学することが欠かせない。

文部科学省「学校基本調査」(2019年度間)より集計

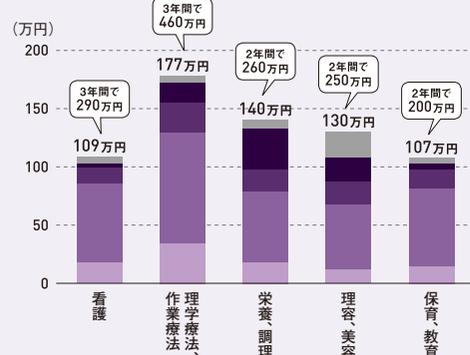
### 初年度学納金は約100万円～。分野によって大きな差

[大学の初年度納付金]



文部科学省「令和元年度私立大学入学者に係る初年度学納付金平均額(定員1人当たり)」(最間部)  
※国立大学は標準額 ※1万円未満は四捨五入 ※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

[専門学校の初年度納付金]



東京都専修学校各種学校協会「令和2年度 学生・生徒納付金調査結果」専門課程(専門学校)平均(最間部)より抜粋  
※1万円未満は四捨五入 ※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

大学の初年度納付金(上記凡例5項目の合算)は、国立はほとんどが標準額82万円だが、独自に値上げを行う大学も。私立は学部系統によって異なる。専門学校の初年度納付金も分野による差が大きく100万～180万円程度。いずれも就学年数によって卒業までの費用が変わるので、入学前に総額の見直しを立てておくことが大切だ。

## 進学費用の動向

